

## 明恵上人養父母の屋敷地 崎山遺跡

治承4年（1180年）に両親を相次いで失った明恵上人は、母の妹の嫁ぎ先であった田殿たのどのの崎山良貞さきやま よしとだに引き取られました。崎山氏は、湯浅氏と婚姻関係にある湯浅党の一員であり、田殿地域が田殿荘と呼ばれる荘園であった鎌倉時代には、地頭じとう（荘園の現地支配をする職）を務めた在地領主でした。

崎山良貞は、明恵上人の紀州における修行を献身的に支援した人物の一人であり、最初の修行地であった白上峰（湯浅町）での修行に際しては、上人から5日に一度の食事の提供を依頼されています。また、明恵上人が自らの夢を書き継いだ「夢記ゆめのま」には、良貞やその妻がしばしば登場することから、精神的にも深いつながりがあったと考えられています。

明恵上人にとって、養父母の崎山良貞夫妻は、実の父母に匹敵するほどの特別な存在であったことでしょう。元久元年（1204年）に良貞が亡くなりますが、明恵上人は死の床にある良貞のもとに京都から駆けつけて見舞っています。良貞が亡くなった4年後には、その妻

が夫の菩提ぼだいを弔うために、屋敷地を寺院にして明恵上人に寄進し、上人はこの地で約2年間、弟子たちと共に修行修学の日々を過ごしました。

崎山屋敷は、明恵上人にとっても重要な場所の一つであったことから、上人の没後には弟子の喜海きかいが卒塔婆そとばを建て「崎山遺跡」として顕彰しました。崎山屋敷は、田殿橋の北側にある「内崎山」と呼ばれる小山にあつたと伝わっています。現在、山上には弘法大師を本尊とする法蔵寺ほうぞうじが所在し、地元では「大師山」とも呼ばれています。

崎山遺跡の卒塔婆は、早くから失われており、その場所が特定できなかつたため、国の史跡指定からは漏れています。現在の卒塔婆は、昭和8年（1933年）に復興されたものです。



紀伊国名所図会

## ●明恵上人を知る歴史講座を開催します

- ・日時／3月18日（土）・25日（土）13時30分～15時
  - ・場所／きびドーム2階多目的研修室
- ※詳しくは、今月の回覧チラシをご覧ください。